NEET減少打開策の検討

1986年11月24日 経営学部 経営学科 F105127 北洞貴史

(1) 問題の背景

現在 NEET という言葉が社会で話題となっている。NEET とは働きもせず 目的もなく、将来の具体的な考えを持たない者のことを言う。その NEET は 年々増える傾向にあるというのが現状である。

(2) 報告の目的

先に述べたように、今 NEET が増えることによって、日本社会にどのような影響を与えるのか。NEET とはそもそもどのようにして生まれてきたものなのか。NEET が生まれてくる原因はどこにあるのか。以上の部分を調べNEET はどのような対策が妥当であるのかという打開策を検討していきたい。

(3) 対象とする問題の概要

そもそも NEET とはなにか?フリーターとどう違うのか?まずは NEET たるものをフリーターと比較して考えていきたい。

\sim NEET \sim

NEET とは「Not in Employment Education or Training」の略称で職を持っておらず、働く意思もなく学校などにも所属していず、将来に対する具体的なプランがない $15\sim34$ 歳の者のことをあらわす。厚生労働省の『平成 16 年版労働経済の分析』によると、就労対象人口の $15\sim34$ 歳の男女のうち 2003 年で 52 万人が NEET であるとされている。NEET は基本的に外とのつながりを持たないため、アンケートなどにも参加しないので、厳密な数を調

べることは不可能に近い。特徴として非常にまじめで完璧主義、物欲などの欲がほとんど無く、人とのかかわりが苦手なものが NEET になりやすいとされている。このような性格であるため、NEET にはいわゆる"高学歴"の者や、専門知識に非常に詳しい者が多いという報告もある。 また上記のような性格にあてはまらないものでも、学校や職場などで受けたいじめが原因になって、NEET になるものも多い。 NEET の多くの現状は、中卒や高卒などの者が多い。中途退学者が多くなる傾向にある。

NEET と一まとめに行っても色々なタイプがあるという。それは下記のとおり

1ヤンキー型

ぞくにいう暴走族などのことを指していて、「今が楽しければいい」と考えているタイプ

2 ひきこもり型

社会に出ることができずに、こもってしまうタイプ

3立ちすくみ型

就職について考え込んでしまい、行き詰ってしまうタイプ。

4つまずき型

いったん就職したものの、すぐに仕事をやめて自信喪失したタイプ。

次にフリーターについて書いてみる。

~フリーター~

フリーターとは、フリー(英語)+アルバイター(独語)を略して作り出した和製語である。会社などに正社員として所属せずに自給や日給などによる給料により生活をしている人のことを言う。

上記により考えてみるとフリーターは正社員としてではないが、ちゃんと働いているのに対して、NEETはまったく働こうとしていない。そこがNEET最大の特徴とも言える。私の考えるNEET最大の特徴は「働く意思をまったく持たない」ところにある。そこがフリーターとNEETの絶対的な違いだと思う。

確かにフリーター希望とする人が増えているのも社会の大きな問題であるといえる。しかし、NEETはまったく働く気がないというところが日本の社会でフリーター問題より大きい問題だと思う。

上記で NEET について記したように、NEET にも様々なタイプがある。私が一番着目しているタイプは 2 番のひきこもりのタイプである。このタイプの NEET の減少打開策を考えていきたい。ひきこもりタイプは NEET の典型的とも言っていいタイプである。社会との関係を築けずにだんだん孤立化していく、やりたいことも見つからない。かといって、無理矢理いやな仕事をいたくないというタイプである。では、NEET は社会にどんな影響を及ぼしているのだろうか?そして社会はどんな対策を行っているのだろうか?

(4) NEET が起こす社会問題

若者の NEET 人口が増加する流れが続けば、国の源泉である税収が確保できなくなるため、社会保障制度(年金・医療・介護・教育の公的負担)や社会福祉政策が破綻の方向に向かっていくのは間違いない。さらに働かないことにより労働力の低下や税収の減少による財政悪化など日本経済に悪影響を及ぼす。それにより国際競争に負けてしまうということも問題となっている。その影響は経済だけに留まらず、働かず収入もなければ、結婚もせず少子化の割合がいままで以上に増え、生活に困った若者が犯罪に走ることも懸念される。

(5) 現在行われている対策と対策の検討

①すでに NEET になっている人への対策

●現在社会では NEET 減少に向けての様々な対応策がなされている。 NEET の社会参加を支援する国の新事業「若者自立塾」に特定非営利活動法 人(NPO法人)「かごしま青少年自立センター静活館」が認定された。

その塾は、NEET の働こうとする気持ちや職業能力を上げることが目的である。入所者は宿泊型の施設で3カ月間にわたり、生活訓練や労働体験を学ぶ。 宿泊費や教材費などは入所者の自己負担となってしまうが、訓練費や資格受験 費は国からの奨励費で大半をまかなってくれる。 鹿児島県の静活館の竹田寿昭理事長(51)は「認定されたことで、費用は約18万円、低所得世帯は約12万円に抑えられる」と説明、「ニートに限らず、現状を何とかしたいと思ったら気軽に相談してほしい。まずは一歩を踏み出しましょう」と呼び掛けているとある。

- →これにより NEET の社会体験を増やして働く意欲を高めようという考えだ。
- ●「NEET、引きこもりにエールを」というのを題目にした「若者の人間力を高めるための国民運動」のイベントが行われタレントの眞鍋かをりとオリンピック柔道三連覇の野村忠宏が若者にエールを送り、歌手の川嶋あいが応援ミニライブを開いた。眞鍋かをりは「若者サポーター」として、参加した約300人の若者らに「社会に出て大人として働くためには、能力よりも先に人間力が必要。若者のみなさんは、自信を持って、人間力を高めて、生き生きとした生活を送って」と呼びかけをした。また、野村忠宏は「目標を持って自分を奮い立たせてください」と訴えた。その後、若者と識者らのトークセッションがあり、川嶋あいさんが熱唱し、「夢を一つは持って、火の中に飛び込む意気込みでがんばって」と激励したとある。

→タレントやスポーツ選手をイメージキャラクターに取り入れることによって 社会と NEET に注目を集め NEET 問題に対しての関心を高めようという狙い だと私は考える。これにより NEET だけでなく NEET を子供に持つ親や関係 者も関心を持ち、いい方向に向かうかもしれないので、いいイベントだと考え る。

●ヤングジョブスポットの見直し等による若者への働きかけの強化 拠点を設置して若者が集まりやすい場所に出向き、情報提供、相談等を実施 するとともに、インターネットを活用して情報を発信するなどにより地域にお ける若者に対する自立への働きかけを強化。

→これは「社会に出たいけど、なかなか出られない」と悩んでいる NEET に対しては効果があると思われるが、はたして、もともとやる気のない NEET が相談や情報提供を受けるかどうかは疑問が残る。

- ②これから社会に出ていく学生に対しての対策
 - ●小中高校生向けの職業意識を高める事業を充実化 ハローワークが産業界と連携し学校において実施している、ジュニアインタ

ーンシップなど小中高校生を対象とした職業意識形成支援事業について、対象 校の拡大や職場体験活動の充実を図る。

→これにより NEET を未然に防ぐことができると思われる。職場体験により 今まで自分が将来やりたい仕事や夢がなかった生徒も仕事に対する興味がわく 可能性がある。

●大学及び大学生に対する就職支援の強化

大学間・学生間の格差の拡大が認められる大学等卒業者の就職環境を踏まえ、 大学の就職担当職員の技能向上をするための講習等の支援を新たに実施すると ともに、学生職業総合支援センターシステムを強化することにより、まだ将来 が決まっていない学生を支援する。

→ 就職担当職員と相談することによって将来に対する不安や自分のつきたい仕事へのアドバイスを得られてよいと思われる。

(6) 外国での対策とその対策の検討

ここで先進国であるイギリスの NEET 対応策を紹介したい。イギリスでは 若者の失業率が日本より高く NEET が問題となっている。日本もそれほど低 くはないのだが、近年上昇の傾向が見られる。ではなぜイギリスの対策を紹介 するのかというと、イギリスのように高い若者の失業率を出してしまった国から学ぶことによって、日本の若者の失業率の上昇を未然に防ごうという考えである。

イギリスの対策→「コネクシオンズサービス」

コネクシオンズサービスとは学習から進路にかかわる悩みや、ドラッグやアルコールに関する相談や情報提供をしてくれるサービスである。若者はアドバイザーを通じて、様々な支援を継続的に受けることができる。街角にはコネクシオンズサービスセンターが設けられ、若者が利用しやすい雰囲気にととのえられている。対象者は NEET だけのように思われるが、若者からの「サービスの対象になったというレッテルを貼られるようなところには行きたくない」という意見により在学中の若者など、すべての若者を対象に作られている。

→このサービスはまだ開始して間もないため正当な評価が下されていないが、 私は非常にいいと思われる。将来の悩みだけでなく生活の悩みまでと多岐にわ たり相談にのってくれるところに関心を持った。さらに「若者が利用しやすい 雰囲気」「街角にある」という点により若者の利用率も上がるのではないだろ うか?このサービスが成功したら、日本も取り入れてほしいと思う。

(7) 妥当だと思われる打開策

私がこれまで検討してきた打開策は思っていた以上に様々な種類があった。 国も地域も積極的に NEET に対して対応をしている。

これまで紹介してきた中で私が推していきたい打開策は大学及び大学生に対する就職支援の強化である。なぜかというと、これをすることによって、学生の就職に対する関心が深まると考えたからだ。就職活動を高学年から始めるのではなく低学年のうちから就職に対する意識を高めておくと高学年になったときに困らないと私は考えたからだ。しかし、すべての人が自分の気に入った、自分にあった職を見つけられるというわけではない。そこで私の考えでは、大学だけに就職支援センターを置くのではなく、中学、高校にも設置するとよいと考える。そうすることによって大学に進学するだけでなく、専門学校、就職など進路の幅が広がると思う。

(8) 私見

今まで自分で検討してきたことを考えてみると、NEET の問題は思っていたものよりも非常に大きく解決が難しい問題であると感じた。NEET にも様々なタイプがあることに驚いた。さらに、NEET は問題があるということは知っていたが、国が色々な対応策を行っていることと、お金をたくさん費やしていることにも驚いた。調べてみると自分が知っているようで知らなかったことがたくさんあった。

私がなぜ先のように若いうちから就職支援センターを利用することを推しているかというと、私が高校生のとき進路について悩んだからだ。そんなとき大学にある就職支援センターがあれば、早く解説できたし、将来に対する不安も和らげることができたであろう。NEETが増える要因のひとつとして"将来への不安"が大きく上げられると私は思う。夢がある。やりたい仕事がある。という人とは別にやりたいことがない人にとっては「将来どうすればよいのか」という不安にかられるのではないだろうか?親が養ってくれているうちはひきこもり型でもやっていけるが、いつかは自立しないといけないときがくる。親を亡くした後、今まで親に頼ってきた子供はどうやってお金を稼いでいくのだろうか。だから、早いうちから就職意識を高めることは自立にもつながっていくと思う。

近年、社会の関心も高まっているようだ。しかし、実際のところ NEET はなかなか減らない。NEET に固執しているようだが、NEET 問題を解決することによって、日本社会の新しい何かが見えてくるかもしれないと私は考える。NEET が減ることによって、もしかしたらフリーターも減るかもしれない。働く意欲を持った若者が増えることによって日本経済がどんどんよくなっていくかもしれない。NEET で働かずにいて自らの才能を使わなかったものが、その才能を生かし新たなる道を作り出すかもしれない。そういう可能性を信じることを NEET の人たちには持ってもらいたい。ここまで自分が語ってきたことを裏付ける根拠はないが、何か発見されるものは必ずあると思う。

(9) 参考文献

フリー百科事典 ウィキペディア http://ja.wikipedia.org/wiki/

→NEET の基本知識について

http://www.jil.go.jp/institute/reports/2004/documents/001.pdf#search='

→コネクシオンズサービスについて

週刊SPA! http://www.fusosha.co.jp/spapage/2004/spa292305.html

→NEET が及ぼす問題について

Yahoo! = --> (http:headlines.yahoo.co.jp/hl)

→現在行われている対策について